

## 第3章 騒音

### 3.1 環境騒音現地調査結果（通常期）

通常期の環境騒音現地調査結果を、表 3.1-1～3 に示す。

なお、調査の実施にあたっては、計量証明事業の登録を受けた調査会社の実施し、計量法に基づく検定期間の有効期間内にある機器を用いて行った。

### 3.2 環境騒音現地調査結果（佐久スキーガーデンパラダ営業期間中）

佐久スキーガーデンパラダ営業期間中の環境騒音現地調査結果を、表 3.2-1、2 に示す。

なお、調査の実施にあたっては、計量証明事業の登録を受けた調査会社の実施し、計量法に基づく検定期間の有効期間内にある機器を用いて行った。

### 3.3 道路交通騒音現地調査結果

道路交通騒音現地調査結果を、表 3.3-1～3 に示す。

なお、調査の実施にあたっては、計量証明事業の登録を受けた調査会社の実施し、計量法に基づく検定期間の有効期間内にある機器を用いて行った。

### 3.4 交通量現地調査結果

交通量現地調査結果を、表 3.4-1～3 に示す。

### 3.5 焼却施設の稼働音の予測条件

焼却施設の稼働騒音の予測にあたり設定した、建屋の室定数を表 3.5-1 に示す。

表 3.5-1 室定数

名称	中心周波数 (Hz)						備考
	125Hz	250Hz	500Hz	1KHz	2KHz	4KHz	
1F 機械室	115.7	389.4	630.3	621.4	535.9	635.7	壁吸音処理
誘引送風機室	66.9	250.4	449.2	441.2	366.9	443.6	壁吸音処理
蒸気タービン室	55.2	206.3	369.9	363.3	302.2	365.3	壁吸音処理
ごみピット	122.6	142.8	150.1	153.7	157.4	193.1	
投入ステージ	105.3	128.9	128.9	128.9	128.9	153.0	
低圧蒸気復水器 スペース	351.9	1129.7	2770.0	2674.1	1932.8	2609.0	壁吸音処理 天井開放
炉室	225.1	212.6	283.8	320.1	356.8	494.9	

注) 質定数の計算式は準備書本編「第5章 調査・予測・保全対策・評価 第3節 騒音」(5-2-33頁参照)に示す。

吸音率は建屋内表面の材質により、表 3.5-2 に示す値を用いた。

表 3.5-2 吸音率

周波数	125Hz	250Hz	500Hz	1KHz	2KHz	4KHz	出典資料番号
コンクリート	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	①
ALC100mm	0.06	0.05	0.07	0.08	0.09	0.12	②
グラスウール 50mm	0.2	0.61	0.91	0.9	0.8	0.89	②
シャッター	0.13	0.12	0.07	0.04	0.04	0.04	①
開口部	1	1	1	1	1	1	③

出典：①「建築の音環境設計（新訂版）」昭和55年4月 日本建築学会設計計画パンフレット4

②「騒音制御工学ハンドブック」平成13年 技報堂出版

③開口部は、各周波数の音がすべて出ていくと考え、吸音率1とした。

透過損失は、壁面の構造をもとに、表 3.5-3 に示す値を用いた。

表 3.5-3 透過損失

周波数	125Hz	250Hz	500Hz	1KHz	2KHz	4KHz	出典資料番号
コンクリート	34	43	50	56	61	67	①
ALC100mm	31	32	29	37	46	51	①
シャッター	15	20	24	23	23	23	②
開口部	0	0	0	0	0	0	③

出典：①「騒音制御工学ハンドブック」平成13年 技報堂出版

②「建築設計資料作成 I 環境」(社)日本建築学会、1978年

③開口部は、各周波数の音がすべて出ていくと考え、等価損失0とした。